

# 九州病害虫研究会 第 105 回研究発表会 プログラム

2026 年 2 月 5 日（木）

会場 くまもと県民交流館パレア  
(テトリア熊本ビル 9 階および 10 階)

〒860-8554 熊本県熊本市中央区手取本町 8 番 9 号

TEL:096-344-5600

発表会場および進行予定

講演 12 分（1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分） 質疑 2 分（終鈴 14 分）

	10階 パレアホール	9階 会議室1
午前の部 9:15 開始	虫害部会 No. 1 ~11	病害部会 No. 1 ~11
昼休み  役員会（10階 会議室8 12:30~13:30）  総 会（10階 パレアホール 13:35~14:00）		
午後の部 14:15 開始	虫害部会 No. 12 ~22	病害部会 No. 12 ~17  虫害部会 No. 23 ~26

九州病害虫研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

HP <https://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>

## 【講演にあたっての注意事項・その他】

1. 講演ファイルは必ず CD-ROM または DVD に書き込んでお持ち下さい。USB メモリは使用できませんのでご注意ください。パソコンは、予め会場に設置したものを用います。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。
2. ファイル名は「‘虫害’または‘病害’ + 講演番号（半角2ケタ） + 発表者名」として下さい。  
例1：虫害会場1番の発表の場合 虫害01 村田.pptx  
例2：病害会場25番の発表の場合 病害25 井上.pptx
3. 講演ファイルの受付は虫害・病害各会場で行いますので、午前・午後の開始前までにファイルの入った CD-ROM または DVD を各会場のスライド受付担当にお渡し下さい。公演中は受け付けませんので、時間厳守をお願いします。
4. スライド映写用 PC の OS は Windows10 で、PowerPoint 2016 をインストールしています。互換性の問題から図の配置や動画の再生環境が変更される可能性がありますので、講演ファイルをスライド映写用 PC へコピーした後、動作確認をお願いします。
5. 講演要旨は本会ホームページ内に掲載しておりますので印刷してご持参下さい。

## 【講演要旨の内容確認と再提出について】

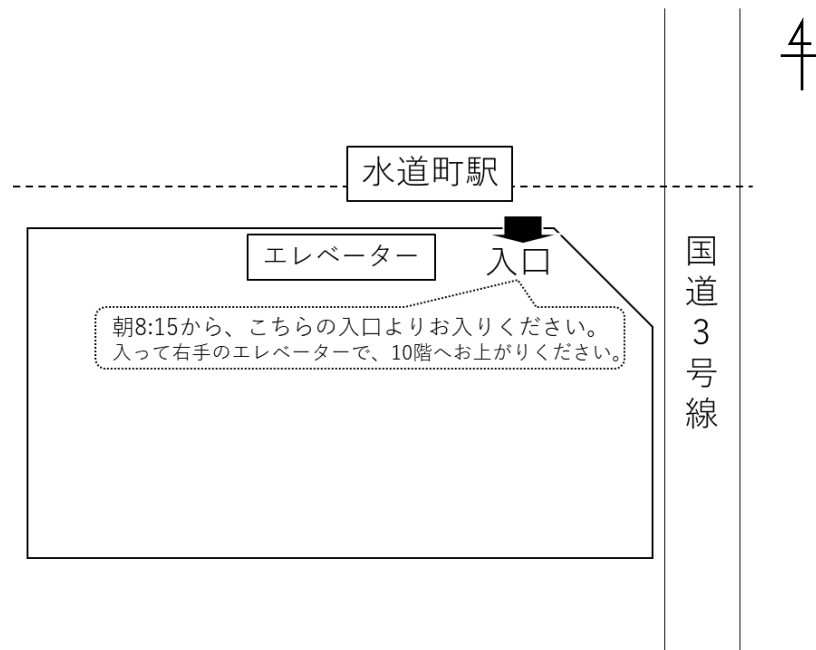
第105回研究発表会の講演要旨は、九州病害虫研究会報第72巻に掲載されます。発表者は講演要旨の内容、誤字脱字等を再度確認して下さい。特に、下記の点について確認・修正をお願いします。規定等が守られていない場合には、演題のみの掲載とします。

講演要旨の訂正が必要となった場合には、研究会終了後に訂正した講演要旨を編集幹事に再提出して下さい。再提出は電子メール添付ファイルとし、締め切りを2026年2月27日(金)とします。

【会場について】

受付は 10 階パレアホール前で 8 時 45 分から開始します。会場へは 8 時 15 分から建物に入れます。

会場では昼休みの間のみ食事して構いません。ゴミ（弁当ガラ等）は必ずお持ち帰りください。会場内の発表時間および通路等は飲み物のみ OK です。  
全館禁煙です。



# 虫害会場 1

会場：くまもと県民交流館パレア 10 階 パレアホール

講演 12 分（1 鈴 10 分、2 鈴 12 分）、質疑 2 分（終鈴 14 分）

## < 午前の部 会場 1 >

9:15～12:00 ※9:10 頃 事務連絡

1	熊本県内平地のイチゴ促成栽培ハウスにおけるアザミウマ類の発生消長
9:15	○川本牧葉・春山靖成・樋口聡志・吉永英樹 <sup>1)</sup> (熊本農研セ・ <sup>1)</sup> 宇城地域振興局)
2	おとり植物・忌避物質・気門封鎖剤を組み合わせたイチゴのアザミウマ類防除体系の費用低減の試みについて
9:30	○岩本哲弥・大山恭吾・本田善之 (山口農総技セ)
3	ヒラズハナアザミウマに対する気門封鎖剤混用による薬効改善効果の検討
9:45	○岩本知子・津田裕樹・平木 薫・山崎修一 (大分農林水研)
4	イネウンカ類払落し調査で使用する粘着板に茎葉付着防止目的の焼網を取り付けた場合の捕獲数と取付け方法
10:00	○井手洋一・近藤知弥・古川晶啓・古田明子 (佐賀農業セ)
5	イネウンカ類 AI 自動カウントシステムで用いるウンカ類が捕獲された粘着板の保管条件
10:15	○高田裕司 (長崎農技セ)
6	種類別のカラー粘着板による水稻のウンカ類の飛来及び発生状況の把握 2
10:30	○本田善之・大山恭吾・東浦祥光 (山口農総技セ)
7	コブノメイガの水稻被害による収量・品質への影響評価
10:45	○江川堯寛・堤 涼・笹島敏也・島 克弥 (エフエムシー・ケミカルズ株式会社)
8	長崎県のカーネーションにおけるミヤコカブリダニによるナミハダニの年内防除効果
11:00	○山本悠奨・吉村友加里・川口智子 (長崎農技セ)
9	カバークロープ混作によるブロッコリー圃場のチョウ目害虫抑制効果
11:15	○川本 旭 (長崎農技セ)
10	アスパラガスの微小害虫に対する天敵保護機能を付加した製剤の有効性の比較
11:30	○吉村友加里 (長崎農技セ)
11	宮崎県における天敵への影響が軽微な薬剤に対して感受性が低下したモモアカアブラムシの発生
11:45	○田爪隆太郎・後藤 弘・松浦 明 (宮崎総農試)
	----- 昼 食 -----

	役員会(12:30～13:30)	総会(13:35～14:00)
--	------------------	-----------------

< 午後の部 会場 1 >

14:15～17:00

12	鹿児島県におけるムツスジアシナガゾウムシのサツマイモほ場での発生と防除
14:15	○林川修二・西菜穂子・稲森博行・関田俊治・内村拓人・神田梨華・篠原和孝・西 八束 (鹿児島農総セ)
13	鹿児島県指宿の施設栽培オクラにおけるクロテンコナカイガラムシの発生状況および生態
14:30	○楠畑勇祐・有馬康平 <sup>1)</sup> ・宮崎信幸 <sup>1)</sup> ・諸留駿平 <sup>2)</sup> (鹿児島南薩振興局指宿・指宿市 <sup>1)</sup> ・J A いぶすき <sup>2)</sup> )
14	露地カンキツのナシマルカイガラムシに対するマシン油乳剤加用ブプロフェジン水和剤の散布時期は前倒しでできる
14:45	○石丸晃成・白石祥子・衛藤友紀 (佐賀果試)
15	根深ネギのネギハモグリバエ (B 系統) に対する省力的かつ効果的な体系防除
15:00	○俵積田みずほ・池之上祐紀 <sup>1)</sup> ・上室 剛・福田 健 <sup>2)</sup> ・本田 傑・楠畑勇祐 <sup>3)</sup> ・西 八束 (鹿児島農総セ・ <sup>1)</sup> 現 大島支庁徳之島事務所・ <sup>2)</sup> 現 鹿児島農総セ大島・ <sup>3)</sup> 現 南薩地域振興局指宿駐在)
16	沖縄県におけるセグロウリミバエ( <i>Zeugodacus tau</i> )の発生状況とその対策
15:15	○新崎千江美 <sup>1)</sup> ・伊礼彩夏 <sup>1)</sup> ・高嶺朝典 <sup>1)</sup> ・本間 淳 <sup>1)</sup> ・池川雄亮 <sup>1)</sup> ・宮城悦子 <sup>1)</sup> ・大石 毅 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 沖縄防技セ・ <sup>2)</sup> 琉球産経(株)・ <sup>3)</sup> 琉球大農)
17	トラップ誘殺データを用いたオス除去法の有効性評価法-セグロウリミバエを例として-
15:30	○本間 淳 <sup>1)</sup> ・ <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 沖縄防技セ・ <sup>2)</sup> 琉球大農)
18	ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV) 保毒虫調査における保毒虫密度とメロン退緑黄化病の発生量との関係性
15:45	○肥後綾佑・江口武志 (熊本農研セ)
19	熊本県の夏秋栽培トマトにおけるトマトキバガの発生状況
16:00	春山靖成・川本牧葉・○樋口聡志 (熊本農研セ)
20	トマトキバガに対する栽培終了時のハウス密閉処理の有効性の検討
16:15	○黒木 尚・松浦 明 (宮崎総農試)
21	ダイズの虫害被害軽減を目的とした各種殺虫剤の効果
16:30	○古川晶啓・近藤知弥・井手洋一・古田明子 (佐賀農業セ)
22	鹿児島県曽於市、志布志市のサツマイモに発生したヒルガオハモグリガに対する各種薬剤の殺虫効果
16:45	○西菜穂子・林川修二 (鹿児島農総セ)

## 虫害会場 2

会場：くまもと県民交流館パレア 9階 会議室 1

講演 12 分（1 鈴 10 分、2 鈴 12 分）、質疑 2 分（終鈴 14 分）

### < 午後の部 会場 2 >

16:00～16:45

23	広食性害虫フタテンミドリヒメヨコバイ <i>Amrasca biguttula</i> の新たな天敵寄生蜂 <i>Aphelopus</i> sp. (ハチ目 カマバチ科) の発見
16:00	○本藤 渚・三田敏治 <sup>1)</sup> ・Serguei V. Triapitsyn <sup>2)</sup> ・安達鉄矢 (宮崎大農・ <sup>1)</sup> 九州大農・ <sup>2)</sup> カリフォルニア大)
24	地中潜伏期のウンカシヘンチュウを効率的、簡易的に観察する手法の検討
16:15	○村田 岳・吉田睦浩 (農研機構植防研)
25	防根シートの種類が施設キュウリにおけるサツマイモネコブセンチュウの移動抑制に及ぼす影響
16:30	○近藤知弥・池田亜紀 <sup>1)</sup> ・古田明子 (佐賀農業セ、 <sup>1)</sup> 佐賀農技防セ)
26	
16:45	サツマイモネコブセンチュウ由来フェノールアミン受容体に作用する活性物質の探索
	○太田広人・四ヶ所孔・亀田慶悟・光増可奈子 <sup>1)</sup> (崇城大生物生命・ <sup>1)</sup> 尚絅大生活科学)

# 病害会場

会場：くまもと県民交流館パレア 9階 会議室1

講演 12 分（1 鈴 10 分、2 鈴 12 分）、質疑 2 分（終鈴 14 分）

## < 午前の部 >

9:10 頃 事務連絡

1	新規箱粒剤インビルフルキサムを用いたイネ紋枯病の発病抑制が収量に及ぼす影響
9:15	○古田明子・田代暢哉 <sup>1)</sup> ・井手洋一 (佐賀農業セ・ <sup>1)</sup> PHC 研)
2	沖縄県におけるジャガイモ青枯病によるイモの被害を軽減できる種イモ植付け時期の気温条件
9:30	○大城 篤・新崎泰史 <sup>1)</sup> ・恩田 聡 <sup>2)</sup> ・安次富厚・澤岨哲也 <sup>2)</sup> ・鈴木崇之 <sup>3)</sup> (沖縄農研セ・ <sup>1)</sup> 沖縄県庁・ <sup>2)</sup> 沖縄農研セ名護・ <sup>3)</sup> 九州沖縄農研)
3	鹿児島県におけるサツマイモ基腐病菌の薬剤感受性について
9:45	○内村拓人・西 八束 (鹿児島農総セ)
4	サツマイモ基腐病に対するフルアジナム剤の散布回数の検討と防除効果の再評価
10:00	○本田 傑・福元智博・西岡一也 <sup>1)</sup> ・中西善裕 <sup>1)</sup> ・上室 剛・福田 健 <sup>2)</sup> ・西 八束 (鹿児島農総セ・ <sup>1)</sup> 現 鹿児島大隅加工研究セ・ <sup>2)</sup> 現 鹿児島農総セ大島)
5	サツマイモ茎根腐細菌病に対するオキシソニック酸水和剤の苗消毒処理における防除効果
10:15	○加治佐光洋・黒木 尚・川口元基・邊見博子・松浦 明 (宮崎総農試)
6	サツマイモの貯蔵中腐敗の原因究明
10:30	○小林有紀・中村晃紳・小林 晃 (九州沖縄農研)
7	サツマイモ軟腐病に対する低温遭遇の影響について
10:45	○石本侑梨・平木 薫・玉野井昭 <sup>1)</sup> ・山崎修一 (大分農林水研・ <sup>1)</sup> 大分地農課)
8	トマト黄化病の収量への影響と現地での防除事例
11:00	○三好朝子・酒井泰良・中村大地・坂井妙子 <sup>1)</sup> ・菊原賢次 <sup>2)</sup> (福岡農林試・ <sup>1)</sup> 現 福岡県防除所・ <sup>2)</sup> 現 福岡県革新支援セ)
9	トマト退緑ウイルス感染によるトマトおよびミニトマトの生育および収量への影響
11:15	○久保一真・福永悠介 (熊本農研セ)
10	タマネギベと病菌卵胞子生存に及ぼす土壌温度・湿度の影響
11:30	○笠原 慎・山田桜子・月野木綾乃・草場基章 (佐賀大農)
11	タマネギ乾腐病に汚染されたセルトレイに対する各種消毒資材による菌密度低減効果
11:45	○上原朋夏・古田明子・井手洋一 (佐賀農業セ)
	----- 昼 食 -----

	役員会 (12:30～13:30)	総会 (13:35～14:00)
--	-------------------	------------------

< 午後の部 >

14:15～15:45

12	炭疽病無病徴イチゴから分離した <i>Colletotrichum</i> 属菌株の同一圃場内における種構成
14:15	○酒井萌絵・草場基章 (佐賀大農)
13	長崎県におけるブロッコリー黒すす病の SDHI 剤耐性菌の発生
14:30	○渡邊 亘 (長崎農技セ)
14	<i>Fusarium oxysporum</i> によるトルコギキョウ立枯病に対する栽培品種の耐病性の比較
14:45	○木戸真史・吉富友里恵 <sup>1)</sup> ・波部一平 <sup>2)</sup> (長崎農技セ・ <sup>1)</sup> 県北振興局・ <sup>2)</sup> セトラスホールディングス株式会社)
15	<i>Trichoderma</i> 属菌によるキクイモ乾腐症状の発生
15:00	○江口空美・松本雄一 <sup>1)</sup> (佐賀大農・ <sup>1)</sup> 佐賀大生物セ)
16	露地栽培カンキツ「佐賀果試 35 号」におけるシェードモナス ロデシア水和剤を組み込んだ防除体系の有効性
15:15	○白石祥子・衛藤友紀 (佐賀果樹試)
17	無加温栽培キンカンで初めて確認された <i>Phytophthora</i> sp. による枝枯れ症状
15:30	○篠原和孝・西菜穂子 (鹿児島農総セ)